

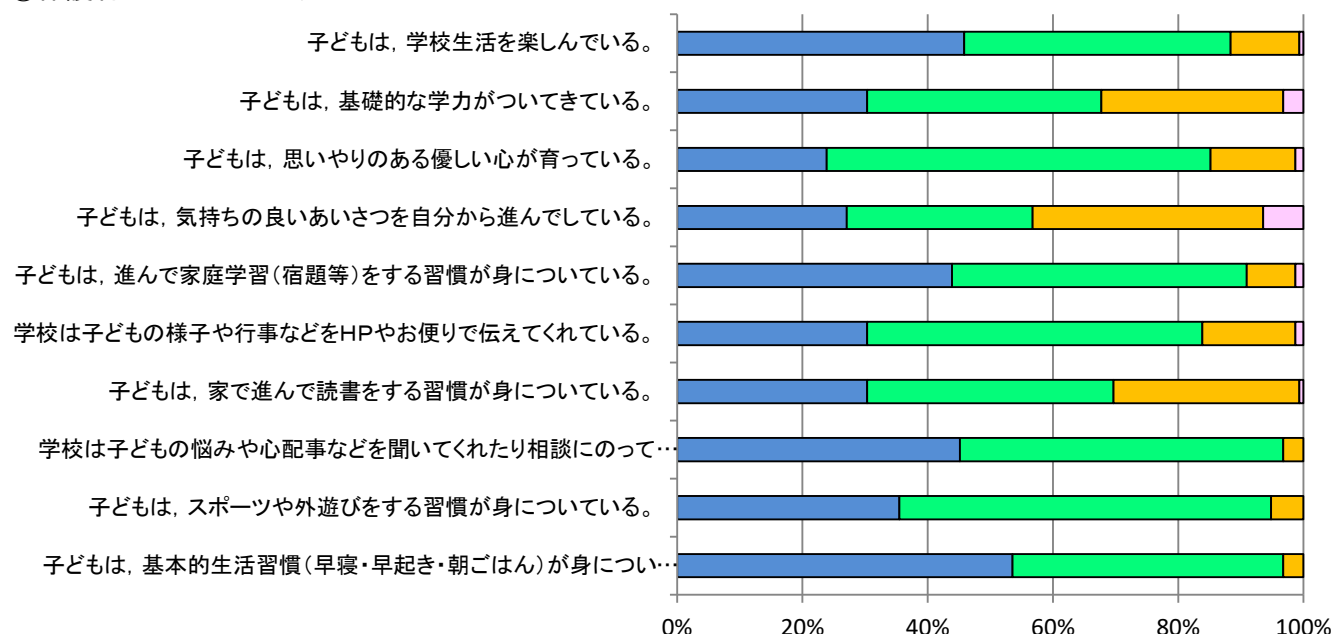
令和3年度 学校評価アンケート(12月実施)の結果

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。平素は本校教育にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、12月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。アンケートは保護者、児童から調査を行い、グラフに表しました。今回は、前回に引き続きインターネットを活用してアンケートを実施しました。その結果、以前よりも回答数が減少してしまいましたが、今後もこの方法で続けていく予定ですので、ご協力よろしくをお願いします。アンケート結果を今後の学校運営に活かしていくよう、努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

グラフは左から「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」で、保護者アンケートはいちばん右に「わからない」を表示しています。

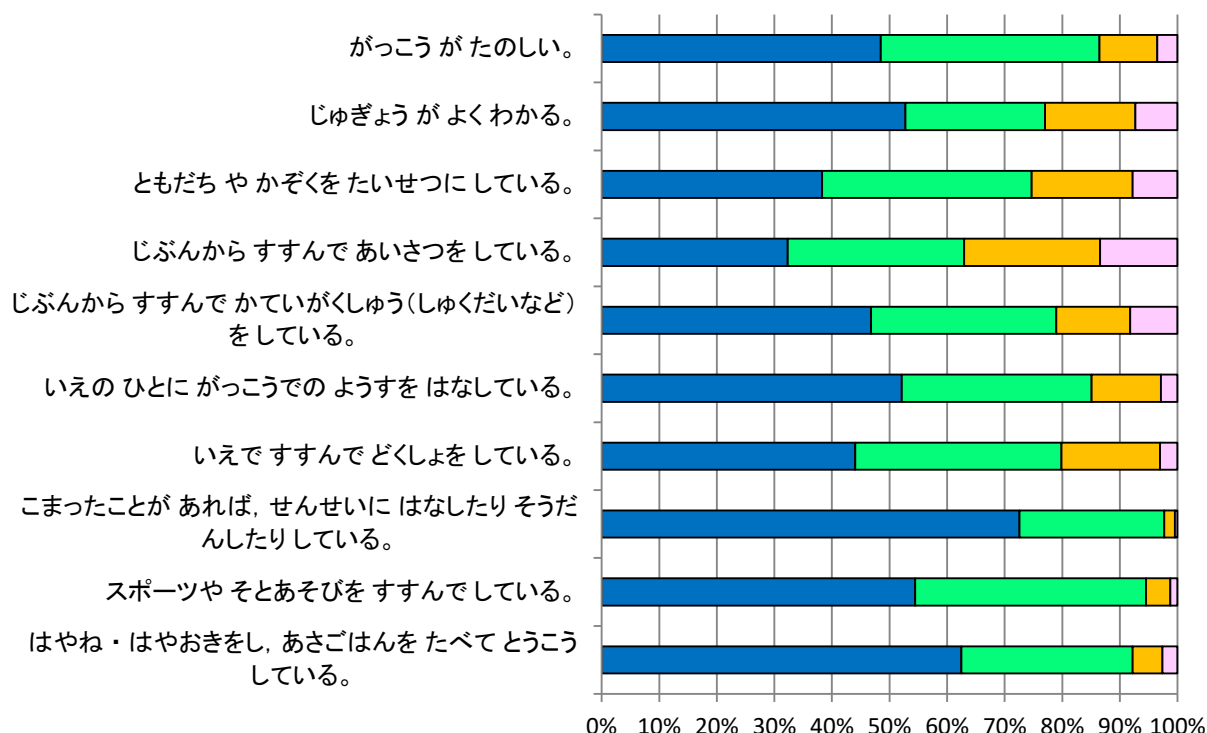
①保護者のアンケートより



保護者アンケートの結果の中でプラス評価(「そう思う」と「大体そう思う」)が大きく下がったのは、「子どもはスポーツや外遊びをする習慣が身についている。」の項目で、前回(7月)の調査よりも7.5%も減少しています。季節が変わり、寒くなったために外で遊ぶ機会が減ったことも大きく影響しているかもしれませんが、学校でもできる限り外遊びができるような声かけや取組を進めていく必要があると感じています。さらに、もう1項目で評価が下がっていました。「学校は子どもの悩みや心配事などを聞いてくれたり相談に乗ってくれたりしている。」の項目で、前回よりも2.5%減少していました。逆に向上した項目は、「子どもは、基礎的な学力がついてきている。」の項目で、前回よりも2.3%、昨年の同時期と比較すると5%のプラス評価をしていただきました。今後も校内でも子どもたちの学力向上のために教職員研修等を通じて様々な取組を進めていきます。毎回のアンケートで一番課題となっているのが、「子どもは進んで読書をする習慣が身に付いている」の項目です。今回はプラス評価が56.8%でした。しかしこの項目については、前回の12月の調査の際よりも7.5%向上しており、昨年の7月と比較すると約10%も向上しています。本校の重点的な取組である「すすんで読書をしよう」がまだまだ十分に家庭の中まで定着していない状況は相変わらずですが、少しずつ浸透してきていることが分かります。昨年度よりも、学校の中では子どもたちが読書を楽しむ姿はさらに多くみられるようになってきており、学校図書館での図書の貸出数はさらに伸びています。昨年度の貸出数をさらに上回り、より一層豊かな読書活動ができるよう、取組を進めていきます。ご家庭でもぜひお子様と一緒に読書をする時間をとってみてください。また、「子どもは、進んで家庭学習(宿題等)をする習慣が身についている」では前回調査に比べて1.4%のプラス評価をしていただきましたが、昨年の同じ時期と比較すると8.5%もプラス評価が増えています。以前よりも家庭でしっかりと学習をする習慣が身に付いてきていることがわかります。プラス評価自体も83.8%と、8割を超えています。今後もご家庭のご協力をいただきながら、子どもたちの学習の力を高めていきます。「子どもは、気持ちの良いあいさつを自分から進んでしている」の項目では、前回よりもプラス評価が減少し、69.7%と7割を切ってしまいました。自然にあいさつができるようになるために、今後も粘り強く取組を進めていきます。学校・保護者が一緒に取り組める内容ですので、ぜひご協力をお願いします。

この評価に甘えることなく、今後も子どもを中心に据えた教育を学校でも進めていきます。

②児童のアンケートより



児童アンケートの「がっこうがたのしい」の項目では、前回調査よりも「そう思う」と答えた児童が9%も増加しました。学校に居場所を見つけ、楽しく登校できている児童が増えていることがわかります。教職員一同で児童を豊かに育む取組を進めている効果が表れていると、うれしく思います。ただし、1.5%児童が「そう思わない」と回答しています。その児童にもしっかりと目を向け、全ての児童が楽しく通える学校を目指します。「授業がよく分かる」の項目では、前回12月の調査よりもプラス評価が3.4%上昇していました。さらに昨年7月の調査からみると約7%もプラス評価が増えました。昨年は新型コロナウイルスの影響による長期にわたる臨時休業のために、児童も学習への不安を感じていたかもしれませんが、今回の調査では95%以上の児童がプラス評価をしていました。今後も児童が学習に自信を持ち、主体的に学ぶことのできる授業を構築していきます。「じぶんからすすんであいさつをしている」の項目では、プラス評価が6%増加し、85.4%になりました。様々な場面で自分から進んであいさつをする児童が増えてきています。しかし、校内ではできている児童が増えていても、学校外に出た時にはあいさつがきちんとできていないという事実もあります。どんな時でも気持ちのよいあいさつができるよう、取組を進めていきます。児童アンケートの結果の中で最もプラス評価が低かったのは、「いえですすんでどくしよをしている」の項目で、71.3%でした。これは、前回調査(12月)よりも6.4%増加し、初めて70%を超えました。まだまだ十分ではありませんが、少しずつ家庭での読書週間が定着してきています。学校だけではなく家に帰ってからも読書に親しむことができるよう、コミュニティ図書館を利用し、団体貸出などの機会を活用して、子どもたちに読書の機会を提供していきたいと思います。また、「こまったことがあれば、せんせいにはなしたりそうだんしたりしている」の項目では、74.5%のプラス評価でした。アンケートをするたびに少しずつ数値は上昇していますが、およそ4分の1の児童が、相談しにくさを感じていることになります。子どもたちがさらに担任と相談しやすい関係性を作っていくよう、取組を進めていきます。今回の結果を真摯に受け止め、さらに100%に近づくよう取組を改善していきたいと考えています。

両方のアンケートの結果については教職員で共通理解を図ることで、今後も改善に努めていきたいと思えます。教職員一同、深草小の子どもたちのために力を尽くしていきますので、ご支援・ご協力をお願いします。



わたしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。